

今月のことば

捨てられて
なほ咲く花の
あはれさに
またとりあげて
水あたへけり

(九條武子『金鈴』)

龍谷大学非常勤講師

小池 秀章
こいけ ひであき

捨てられて なほ咲く花のあはれさに
またとりあげて水あたへけり(『金鈴』)
「ゴミ箱にふと目をやると、捨てられた状態にありながらも、
相変わらず咲いている花がある。その花をかわいそうに思い、
再び取り上げて水を与えた。」このような光景が目に見えれば、
す。

この和歌は、浄土真宗本願寺派の仏教婦人会や、京都女子
大学の創設にご尽力された、九條武子さんが詠まれた歌です。
武子さんのやさしい心が伝わってくるようです。

どのような状況にあらうと、ただ、いのちいっぱい咲い
ている花の姿に、心が揺さぶられる。そのような、他のいのち
に共感する心を大切にしたいと思います。

しかし、普段の私は自分のことしか考えていません。他の
いのちが傷ついていようが、いや、他のいのちを傷つけていよ
うが、それが普通だと思ひ、気にすることもありません。

仏さまは、あらゆるいのちと共感し、あらゆるいのちを慈
しんでくださいます。そんな仏さまの心に出遇った時、自分の
ことしか考えていない自らの姿が見えてくると同時に、ほんの
少しづつではあるけれど、他のいのちに目を向けることを心が
ける人へと、育てられていくのです。

見ずや君 明日は散りなむ花だにも
力のかぎりひと時を咲く(『金鈴』)

合掌